

地域防災のために

福浦小学校の6年生が、総合的な学習の時間の追究活動として、地域を探索し、地元建設会社などの協力も得て作成した防災マップが、「第9回小学生のぼうさいマップコンクール」で最優秀賞にあたる文部科学大臣賞を受賞しました。

全国の小学校などから2,018作品の応募があった同コンクールで入賞した福浦小学校の防災マップ作りを通じた防災への取組を紹介します。



福浦小学校6年生の中野香穂さん(写真後列左)、猪野修也くん(同中央)、清家祐花さん(同右)、松田嵐くん(写真前列左)、長濱雄介くん(同右)

福浦小学校の取組



マップには避難経路のほか、独居高齢者宅や調査で気付いた危険箇所も表示されています。



マップの裏に収納されたセロハンを引き出すと、巨大地震の際に福浦地区で予想される浸水区域が現れます。

地域のために

6年生5人が協力し合い、従来の避難場所以外に新たに7か所の避難場所を選定しました。

避難経路には、高齢者が避難の際に歩きやすいようにと段差のない舗装された道を選びました。実際に子どもたちが歩いて調査したことで、道の形状など地図だけでは分からなかった発見がありました。

避難所の海拔は・・・

猪野建設(福浦 猪野^{たかし}社長)の協力で、距離や角度が測定できるトータルステーションという測量機器を使用して、従来の避難場所と自分たちで決めた新しい避難場所の正確な海拔を測定しました。

南海トラフ巨大地震に関する国の公表では愛南町での最大津波高が17mとされましたが、子どもたちの発案で、想定以上の津波高さにも備えようと海拔20m以上で広さも十分な場所を避難場所としました。



ふだんの子どもの遊び場所からほど近い町指定の一時避難所「若宮神社」も海拔14.5mと判明。より高台に避難しようと子どもたちは決めました。



防災意識の高揚をめざして

現在本町では、海拔20m未満の一時避難所の見直しや避難路の整備などを実施しています。しかし、より重要なことは一人一人が防災意識を強く持つことです。非常に大きな津波が来ることを念頭に置き、巨大地震が発生したときにどのような行動をとらなければならないのかを家族で話し合い、しっかりと確認しておきましょう。

「私たちのこの活動が地域の方々の防災意識を高めることにつながる」といいな。福浦小学校の防災マップには、子どもたちの祈りも書き込まれています。

猪野建設 猪野社長の話

小学生から「防災マップ作成に協力してほしい」と依頼があり、地元でもあるし、地域に貢献したいという思いから喜んで引き受けました。測量機器は持っていましたが、子どもたちの申し出がなければ海拔の測定は思いつきませんでした。これを機会に、防災への取組を強化したいと思います。

